

図書波だより

題字 田部島根県知事

号数 第6号
発行日 昭和45年1月15日
編集 横野健治
発行 島根県立図書館
松江市内中原町52
TEL (0852) 21-2101
印刷 渡部印刷株式会社



中海の黎明

年頭偶感

よく見ると、話の泉とか、思潮とか、近ごろ情報の氾濫とか……知識や情報の伝わりかたは、水や流れにちなんで表現される。

情報産業時代などといわれているとき、記録やその知識の必要なことは、ちょうど、工業用水が重工業を支えているように、水に似ているといえないだろうか。

このようなたとえをかりれば、図書館は情報の一つの水源であり、本や資料の貯水池である。かりにこの貯水池から、必要な資料が水道をとおる水のように手近かに自在に配本されたら、どんなに生活を豊かに潤おし、その地域に役立つか図りしえない。

しかし、実際には、その資料から知識を求めるには、大体図書館という貯水池まで来て、その泉をくみとらなければならない。

テレビやラジオはスイッチ一つで、その番組が、茶の間に流れてきてその役目を果たしているが、手にとって読むことになると、なかなかそうもいかない。求める本や資料はそれぞれちがうし、マスコミや水道のようには、いかないことが問題になってくる。

図書館は、読みたい本を提供し、必要な記録を利用してもらうため、できるだけ手近に自由に、これに応ずることが目標である。めまぐるしい世の中の変化に対応するためには、多様な情報の流れが必要になってくる。

図書館の組織が、各地域にあみの目のように拡がって、それに通水するかのように、せめて部落の共同水道くらいまで、配本できるようにしたいものである。

おびただしい本の量で、流れるように、貸出しが行なわれている英國の図書館網にならって、活発な図書利用がなされる日がくるのを、ただの初夢にしたくないと思っている。

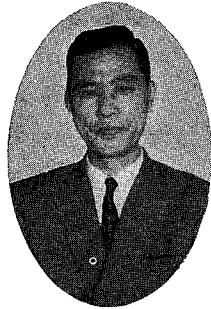
県立図書館長 横野健治

カウンティライブラリー

読書のすすめ

島根県教育委員会・教育次長

中村芳二郎



(1) 読書人の企業者

明治維新という偉大な革命をもたらした、新しい下級武士階級—今日でいうヤングパワーの人々は、維新後の新政府で次第に極要な地位を占め

るにいたったが、彼等が最初に目を向けたのは、教育への投資ということであった。その場合、政府にとってもっともてつとり早い教育の手段は、有望な青年を先進国に送り込み、発達した産業文明に直接触れさせることであった。さらに、留学制度と並んで重要なのは、近代的教育機関の設立であった。明治5年という革命後間もない時期に、今日の教育制度のおおよそのものが築かれたことは、当時の若き革命家たちの教育に注ぐ情熱のほどを知ることができる。

維新以降、わが国は、富國強兵を背景とし、日本産業の近代化・工業化を急ぐ必要があったが、明治初期のころにおいては近代産業技術は、実地の経験ではなく、何よりも先ず『書物を読むこと』を通じて、外国から得獲する以外に方法がなく、留学から帰った人々を中心として、あらゆる産業分野に『読書的な』企業者の活動が行なわれるにいたった。この産業革命のごく初期のころにおける『読書人』的企業者が結局、今日のわが国の繁栄の基礎を築いてくれたことになり、また、先人が情熱を注いだ近代的教育機関で育成した工業技術陣が、戦後の技術革新時代に果たした役割りの大きさについては、夙に知られるところである。

1970年は、新しい情報化時代へのスタートであり、また、宇宙元年ともいわれ、さらに高度な技術革新時代を迎える。現代をになう企業者も政治家も、行政をするものも、この大きく変動する時代に即応するためには、新しいそして深い知識を必要とする。70年代は知識産業時代であるかもしれない。その意味においても、コンピューターやソフトウェアや宇宙開発、海洋開発等のための新知識を得るために、すべてのものが読書に精励する必要度が、今日より大なるはないのではないかと思われる。読書的な企業者や読書的な行政マンだけが、この時代に価値ある存在となることは、明治維新の歴史が如実に示している。みんな『読書的な』職業人となろうでは

ないか。

(2) 辞書を引く。

昭和9年4月、旧制松江中学校に入学したとき、親から買ってもらった漢和中辞典以外に今日まで、辞書を買ったことがない。専門書的辞典（経済学大辞典や法令用語辞典等）は職務柄、いくつか買う機会があったが、いわゆる基礎的な用語辞典は遂に今日まで買うことがなく、また、大してそれで痛痒を感じないことが多かった。ところが最近、10年ばかりつとめた県の自治研修所の講師をやめさせてもらうことになった際、自治研修所のご好意で、新村出先生の編集になる『広辞苑』（第2版）の寄贈をうけることになった。かねて、その優秀性については見聞することも多かったが、価格が相当のものであるためと、急いで買わなければならぬ他の書籍が山積している等々の理由で買えなかった（買わなかつた？）ものが、思いもかけず、手にいれることができ、机上におくと、他の書籍を圧し、その重々しい装丁とともに心のときめきをすら覚えるほどであった。

爾来、未知の世界に初めてわけあって行くような気持ちで、辞書を引く機会が多くなったが、最近とくに辞書を引くことの面白みが出てきて、次第に心を引かれて行くようになった。例えば『尻餅』という言葉は、普通『尻餅をつく』という意味しかないと思っていたのに『喜んでこおどりすること』や『子供が初誕生日前に歩いた時につけた祝餅』などの意味があると知って、つくづく感心させられたり、吉行淳之介氏も紹介しているように『夜郎』とは、夜になると街に出て肩で風切る地まわりの若い衆のことだと思っていたら、それが、中国の西南、今の貴州の西境にいた夷（勢力盛ん）のことであると知って「アッ」と驚いたりである。いずれにしても、自己流の解釈や生半可な知識で世渡りしているケレン味が思い知らされて、今さらに汗顏の至りである。そして、ますます心して辞書を引くことを心掛けている。

(3) 図書館族

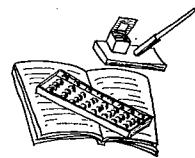
近ごろは、書籍の値段も一般的に物価騰貴に刺激されてあがる一方であるし、また、次から次へと新刊本のラッシュでは、安月給の身として思うように本を買うことができず、勢い手近かにある県立図書館や議会図書館を利用することが多くなるこのごろである。そこで思うこ

とは、県立図書館や議会図書館の周辺には多くの官公署があり、銀行、会社等もあるが、果たして幾人の人がこれを利用しているであろうかということである。そうかと思うと県立図書館には、毎日開館とほとんど同時に入館して、各種の新聞や雑誌をたん念に読んで暮らしている？一群の人々がある。不思議といえばいえないことはないが、私はこれらの図書館における常連的新聞愛好者グループもさることながら、建築物としても近代的価値のある県立図書館を愛して、常に利用してくれる知識階級

の人々が増え、たとえ用がなくてもそれらの人々が、図書館のロビーに自然に集まってきて、おのずから、そこにアカデミックな雰囲気ができるてくる図書館ロビー族－新しい図書館族－が出現してくれることを心から望んでいる。それでこそ、国際文化都市である。県立図書館も知らないようでは、「文化」の名が、まして「国際文化」の名が泣くではないか。世俗のことごとに背を向けて、文化の香りに親しむ新しいインテリ－諸君を図書館は求めている。

公共図書館の広場

— 安来市立図書館の巻 —



沿革

昭和29年4月安来市中央公民館の一室に、山村光敏氏（元清水寺住職）らの寄贈図書に市の購入図書を加え、



約3,000冊の蔵書で安来市公民館図書室を設置したのが現市立図書館のそもそもの源である。当時はかなり利用者もあったらしいが、図書室が狭いため閲覧席もわずかしかとれず各地域への団体貸出しを主体としたためと新刊書の補充なきために次第に利用者少なくいたずらに蔵書はほこりに埋まっている状態となった。

昭和41年また米子信用金庫安来支店が新築移転されたのを機会に市内有志の間に図書館設立の声高まり、昭和42年6月元の米子信用金庫建物の寄贈を得、一方住民に呼びかけて図書の寄贈を受け、同年8月5,000冊の蔵書と島根県モデル文庫800冊を開架式にして安来市立図書館として発足するに至った。

開館後も幸い図書寄贈者があいつぎ中には個人で現在まで3,750冊（約230万円）の多額の方もあり、開館以来2年半で約1万冊の蔵書をみるに至った。

蔵書内容は文学28%、歴史伝記24%、哲学11%、総記

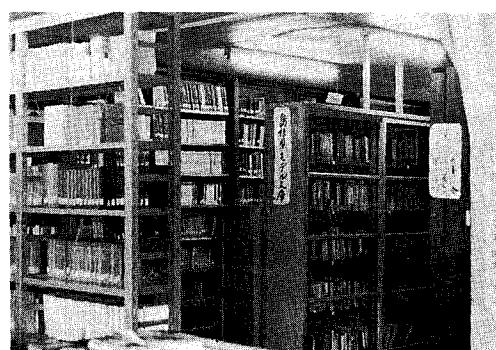
10%、（以下略）で、ややかた寄った感があり、自然哲学、工学、産業図書の充実が利用者から希望されている。

利用方法

次に現在実施している利用方法を略記すると、開館時間は生徒・学生・一般労働者の利用可能時間を考慮して、月曜日から土曜日までは13時から21時までとし、日曜日・国民の祝日は9時から17時までとしている。ただし児童・生徒・学生の夏休み中は特別取り扱いとして9時から21時までとする。休館日は毎月15日と月末（図書整理のため）の2日、ただし夏休み中は毎週日曜日を休館とする。奉仕係の勤務はパートタイマーで4時間交替とする。

図書館活動については現在のところ特筆する施設がなく慚愧にたえない。

今後の計画として急を要する点は、図書の充実（2万冊目標）、児童室の設置、閲覧室の整備、図書館活動の推進等が山積している。



成人式を迎えた人たちにおすすめしたい本！

新しく成人となられたみなさんに、読書をお勧めします。

青年期においての読書は、人生観が大きな影響をうけたり、その後の生き方に大きな方向が与えられたりするものです。

青年期は内向的な時代であり、また思索にふける時代でもあります。この青年時代に読書を通じて精神の糧とし、人間的に成長されることを望みます。

次に紹介します本は最近出版されたものの中から特にみなさんにお勧めするものです。

赤頭巾ちゃん気をつけて

庄司 薫 著

芥川賞受賞作。男の子いかに生くべきか？。都会的な感覚と、新鮮な文体で、現代の若者を描いて、若い世代の共感を呼ぶ。新しい文学の颶爽たる登場。

360円（四六判・188頁）中央公論社

美しい日本の私—現代新書—

川端 康成 著

本書は、川端康成氏のノーベル文学賞受賞記念講演の全文である。日本的リリシズムの極致を結晶させた絶品であり、日本の全若人の必読の書である。

180円（新書判74頁）講談社

企画力一無から有を生む本—

多湖 輝 著

＜カッパ・ビジネス＞

企画力を生み出す最新ビジネス・トレーニング。ミヒラメキのメカニズムから、アイデアの実践までを、最新心理学の成果で解明した多湖式思考法。

330円（新書判・218頁）光文社
坂の上の雲<1・2>

司馬 遼太郎 著

騎兵総監の兄、連合艦隊参謀の弟、秋山兄弟が日露戦争を勝利に導いたという。そして正岡子規、松山出身の三人の友情と情熱—ここに明治の青春がある。

各480円（四六判・(1)319頁
(2)275頁）文藝春秋

新実力主義—文春ビジネス—

盛田 昭夫 著

学歴無用とは実力有用ということである。しかし、その実力も皮相的にしか考えられていない。本当に実力主義とは何かと問いかける著者はソニー副社長。

340円（四六判・236頁）文藝春秋

父・山本五十六—その愛と死の記録—

山本 義正 著

＜カッパ・ブックス＞

無口な父の思い出のかずかず…逆立が得意だった父…母の写真を身につけていた父…雄々しく戦って死んだ父…戦後初めて子の目と肌で浮彫りにした感動の記録

330円（新書判・220頁）光文社

明日を知らず

芝木 好子 著

戦争により夫を失い、また様々な戦中の体験を持った一人の女の心の傾斜と、訣れなければならなかった男と女の愛の形を、小説を通じて鋭く提示する。

580円（四六判・208頁）河出書房新社

贈る言葉

柴田 翔 著

『愛の観念』に固執して遂に結ばれることなく訣別して行った学生時代の恋人に語りかける抒情的作品『贈る言葉』と芥川賞受賞後の第一作「10年の後」を収録。

340円（四六判・220頁）新潮社
心ゆたかに

湯川秀樹 著

人生・学問・創造性・芸術等広範囲にわたり、日本を代表する優れた知性である著者が、折りにふれ述べてきた所懐を収める

680円（四六判・311頁）筑摩書房

進化論の歴史—岩波新書—

八杉龍一 著

神の創造か、自然的な進化か。本書は進化論成立に至る歴史を探り、その深く広い思想的意味を今日の観点から掘りさげたものである。旧著「進化と創造」を改訂。

150円（新書判・192頁）岩波書店

青春の蹉跌

石川達三 著

若い情熱と冷たい孤独感一胸のうちを吹き荒れるこの焦躁に解決の道はないのか？貧しさゆえに充たされぬ野望をもって社会に挑戦し、挫折した青年の心語。

470円（四六判・250頁）新潮社

森村桂日本を行く

森村桂著旅行するなら愉しくやろう。各地の名物たらふく食べて、言いたいことはジャンジャン言って、隅から隅まで見てやろう。森村桂の破天荒探訪記

320円（四六判・238頁）講談社



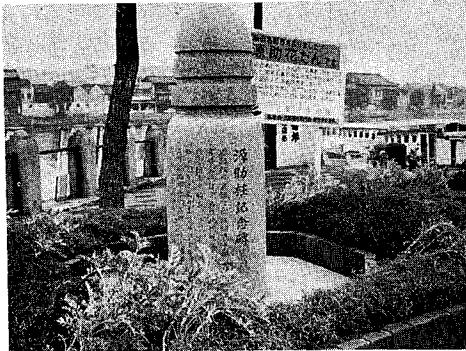
レファレンスコーナー

—最近のレファレンスの実例から—

(問) 源助伝説について知りたい

(答) 堀尾吉晴は、慶長12年(1607年)広瀬の月山城から松江に城を移すことに着手した。当時、大橋川は、竹で作られたそまつな橋がかかっており、渡る時カラカラと音がするので「カラカラ橋」と言っていた。堀尾吉晴は、このカラカラ橋を本格的な木橋にかけかえることにした。この橋のかけかえについて、次のような、哀れな、源助の伝説が伝わっている。

橋のかけかえ工事に取りかかって、いくら努力しても、どうしても橋がかからなく、橋杭を打っても、地盤がやわらかくて駄目なので、大きな石を無数に投げこんでみたが、効果が無く、せっかくの昼間の工事も、一夜の中に水に流されてしまう難工事であった。そこで、堀尾家の土木頭一同が集まって相談した結果、水神の怒りを鎮めるために、人身御供の人柱を立てることになり、「マチ」のついてないはかまをはいて、最初に通る者を



人柱にすることになった。(一説には、はかまの破れに、横縞の布で継ぎ当てた者となっている)たまたま『源助』という足軽の男がマチのないはかまをはいて、最初に通りかかったので、源助は箱詰めにされ、最も工事が難行する南から三番目の柱の下に、生き埋めにされた。これ以後は、さすがの、難工事も順調にすすみ、びくともしない立派な橋が完成了。

人々は源助に感謝して、以来この柱は、源助柱と呼ばれている。月の無い真夜中の2時から3時ごろになると、源助柱のあたりから赤い鬼火が、しきりに飛んだと言い伝えられている。

この話は、大橋のかけかえ工事に、犠牲になった、幾多の人々の靈をなぐさめるために、源助という一人の男によって、これを象徴化されたものと見られる。

また文豪小泉八雲によって、この伝説は世界の人々に紹介された。現在これは、源助まつりとして受けつがれており、昭和26年から、松江市が観光行事として、大きく取り上げている。現在、大橋、南詰の橋のたもとに、源助の石碑が立てられている。

<参考資料 山陰日日新聞社編『松江八百八町町内物語』—白鶴の巻—、小泉八雲著「神々の国首都」、石村春莊著「松江むかし話」>

私たちの読書会グループ

中野地区第一読書グループ

活動状況

42年7月、参観日の家庭教育学級の学習時間に校長先生の発案にとびついで発足した第一グループではあるが、まだ軌道に乗ることはできない。少々おそぎた感じがしないでもない。会員5名の小グループであるが集まるということはご多分にもれず難行である。

家庭と職業を両立させながら毎月1~2回は集合している。欠員のまま聞くこともあるが集まれば必ず何かの収穫があり時間の過ぎるのも忘れる。私たちの生活には考えさせられることが随分と多くなった。個人や家庭内で解決できないことがあると読書会で聞いてもらい話し合う。その結果解決策の出た喜びに励まして、ますますこの会をおもしろすめる気持ちになる。もちろん会員は信頼し合った者ばかりなのである。

会の目標、性格は特に決めてはいないが、幸福な人生をあゆむためになすべきことを読書により、話し合いによって学んだり実行したりしている。時には小学校の図書室から童話を借り人間性、社会性などを学ぶこともある。信仰をすることが幸福につながるものだと思いつけば寺を訪れ幸福の探究をこころみる。大体読書が好きで集まっているので歴史物、娯楽物を披露されたのしむ時もある普通の読物としては毎月「PHP」を各自購読し共鳴することが多い。

また時には校長先生のご厚意により子どもの様、学習のあり方、社会問題などについて指導を受けることもある。図書を一貫して読書会を進めて行くのが本来のあり方であろうがリーダーのない心易さから、世間話から、偶痴こぼしに時を過ごしました、レクリエーションの打合せに花を咲かせるなどまさに幅広い肩のこらない会である。こうした地道な積み重ねを続けていくことによって読書会の目的なり方向が自然に導き出されて、お互いが喜びと成長を見出す日こそ私たちの待ちのぞんでいるところである。三歩進んで二歩下る状態であってもよい。挫折することのない精進を続けて行くことだろう。

(邑智郡石見町中野・椿富子)



寄 贈 図 書

◎一般図書

図 書 名	住 所	寄 贈 者
三瓶山旅情	大田町	大田市役所
島根県立博物館建設概況	松江市	教育庁総務課
たたら研究	広島市	たたら研究会
日本美術	東京都	日本美術社
石見古城跡集録	益田市	益田市立図書館
オリイブ	松江市	安部鶴造
猛烈医者の履歴書	横浜市	春日行雄
夢の大田市	大田市	岩井至郎
津和野の誇る人びと	津和野町	津和野町教育委員会
松江工業高校60年史	松江市	松江工業高等学校
川崎汽船50年史	神戸市	川崎汽船株式会社
尼子物語	広瀬町	広瀬町観光協会
伊丹市史	伊丹市	伊丹市役所
島根県の歴史	松江市	今井書店
二代・小菅円治	東京都	小菅円治
炎	益田市	岡本葉子
山陰の民話	安来市	中野秀慶
柳亭遺句集	能義郡	金津敏夫
田舎の大学から	松江市	酒井勝郎
隱岐の石造美術	"	伊藤菊之輔
ケネディと共に等	広島市	アメリカ文化センター
中村憲吉の歌	那賀郡	梅田敏夫
名古屋のおいたち	名古屋市	市経済局観光課
本邦貯蓄銀行史	東京都	協和銀行
日本美術工芸	松江市	田中俊夫
日本芸術大鑑	東京都	日経通信社
天草諸島のヒドロ虫類	"	宮内庁
電信電話事業史	松江市	電報電話局
研究報告集	"	島根県立教育研究所
田畠修一郎	益田市	矢富 準
さっぽろ雪まつり20年の歩み	札幌市	札幌市役所
島田俊雄先生	浜田市	原 亮一
大蔵省百年史	東京都	大蔵省
歌集遠水脈	籾川郡	鉢 京造
島根県教育委員会二十年史	松江市	教育庁総務課
ブラジル百科	大阪市	大西信平
近畿の電信電話	"	近畿電気通信局
地域別雇用情勢回顧	松江市	職業安定課
建築業協会賞十周年記念作品集	東京都	山内信次郎
東海道今昔旅日記	松江市	建築業協会
婦人労働の実情	"	福島和夫
農家と共に20年	"	島根婦人少年室
少年補導のあゆみ	"	島根県農林部
激動の隠岐	西郷町	島根県警察本部
世論調査	東京都	斎藤輝夫
ローマ日本文化会館年報	"	内閣總理大臣官房広報室
国立競技場十年史	"	国際文化振興会
自然科学と博物館	"	国立競技場
国際電信電話年報	"	国立博物館
外国航空宇宙文献目録	"	国際電信電話株式会社
日本とアジアの安全保障	"	国立国会図書館
福岡大学三十五年史	福岡市	小林与三郎
放射線医学総合研究所年報	千葉市	福岡大学 放射線医学総合研究所



— 9月1日から11月15日まで —

- 9月1日 郷土出身者著作展（9月中）
 2日 自動車文庫巡回（加賀、美保関コース）
 3日 自動車文庫巡回（伯太コース）
 4日 自動車文庫巡回（平田、日御碕コース）
 5日 自動車文庫巡回（八雲、湖南コース）
 10日 自動車文庫巡回（美鹿コースA）
 13日 文化映画を見る会、ステレオコンサート
 17日 自動車文庫巡回（美鹿コースB）
 18日 県図書館協議会（第2回）
 19日 東出雲郷町意東小学校100名見学
 20日 古文書を読む会
 県女子青年研修生30名見学
 25日 自動車文庫巡回（邑智コースA）
 27日 文化講演会（於、集会室）
 (9月中閲覧者総数15,420名)
- 10月1日 秋季ばく書（休館9日まで）
 小泉八雲展（10月中）
- 7日～8日 昭和44年度全国公共図書館奉仕部門研究集会（2日間）参加者150名
 県外 115名 県内 35名
- 11日 文化映画を見る会、ステレオコンサート
 13日 自動車文庫巡回（佐田、湖陵コース）
 14日 木村義雄画伯、東京大学石井助教授来館見学
 15日 松江一中母の会50名来館見学
 16日 自動車文庫巡回（那賀コース）
 18日 古文書を読む会
 23日 自動車文庫巡回（広瀬コース）
 愛知県労働会館建設室長ほか1名見学
 24日 自動車文庫巡回（横田コース）
 自治省地方債課持永補佐ほか4名来館見学
 25日 自動車文庫巡回（揖屋コース）
 27日 読書週間（11月9日まで）
 28日 移動図書館特別巡回（布部コース）
 29日 同 上（大東町、仁多町）
 30日 同 上（木次町）
 31日 同 上（頃原町）
 (10月中閲覧者総数10,110名)
- 44年11月1日 めずらしい図書資料展（11月中）
 4日 移動図書館特別巡回（大社町、大田市）
 5日 同 上（益田市）
 6日 同 上（津和野町、柿木村）
 7日 同 上（浜田市、石見町）
 栃木県建築課長ほか4名、平田市小、中学校図書館職員12名来館見学
 8日 移動図書館特別巡回（瑞穂町）
 文化映画を見る会、ステレオコンサート
 10日 移動図書館特別巡回（鹿島町）
 松江市立稚賀幼稚園P.T.A.60名見学
 11日 八雲村公民館関係者15名、在松官庁広報担当者18名見学
 15日 古文書を読む会

図書館ニュース

◇県視聴覚教育研究集会

大東町で開催！

県教委主催、島根県視聴覚教育研究集会は「社会教育の学習活動を拡充するため、効果的な放送利用を考えよう。」という研究主題のもとに、12月10日、大東町文化センターで県下の社会教育関係者、約200名が参集して開催された。

オリエンテーションの後、日本映画教育協会次長、宮永次雄氏の「情報化社会と視聴覚教育」と題して講演があり、情報時代に生きる人間の位置と教育のあり方について、その豊富な体験と広い視野にたっての話は、参集者に多大の感銘を与えた。

つづいて、「家庭視聴と番組の活用」「家庭教育と放送視聴」「グループ活動と視聴覚教材の利用」の三分科会に分かれ、島大・野津教授、県立図書館・岡田振興課長、安達視聴覚係長、県社教主事、NHK関係者を指導助言者として熱心な研究討議が行なわれた。



第一分科会では、テレビ農業講座の利用、並びに家庭における子どものテレビ視聴について実践発表があった後、一般参加者の側からは体験を通しての意見が述べられ、助言者からは理論的な面から各種の調査結果等、豊富な資料にもとづいた指導が行なわれた。

第二分科会では主として家庭教育の立場からテレビ番組の視聴のさせ方について実践発表があり、そこから話し合いが発展していくが、これに関連してテレビの難視聴地域の問題がとりあげられ、NHKに対し、善処を望む意見が出され、NHK側も極力努力する旨、回答があった。

第三分科会では、視聴覚教材の活用と問題点について、また、父親学級に視聴覚教材を活用した実践例について発表があった後、主としてグループの学習活動における放送や映画の効果的な利用について話し合いが行なわれた。

また地域視聴覚ライブリーの開設、充実と録音教材の活用について助言指導が行なわれ、注目された。

このたびの研究集会全般を通じて、視聴覚教育の重要性を今さらながら再認識するとともに、今後続々と開発が予想されるマス・メディアとともに、情報化時代に即応して教育革命がすでに始まっていることを、あらためて認識させられた次第であった。

◇県公共図書館協議会開く！

島根県公共図書館協議会は、図書館事業の振興を目的として開催されるが、44年度秋季総会ならびに研究会が去る12月12日当館集会室で開かれた。

当日は県から岡村社会教育課長を迎えて、県下11の公共図書館から関係者20数名が出席し、来年度事業計画などについて終始熱心な研究討議がおこなわれた。

主なる研究、協議題は次のとおりである。

1. 図書整理および製本の講習会について
2. 巡回展示会の状況と反省について
3. 45年度事業計画について
4. 盲人に対する図書館の取扱い指導について
5. 市町村立図書館の来年度予算増額のための側面的な働きかけについて
6. 図書館資料の交換促進について

◇『日本万国博覧会資料展』の

開催迫まる!!

世界中の国ぐちに
が展示館を建てて
、その国の産業や
文化を展示し、お
互いに交流しあう
国民待望の『日本
万国博』は来る3
月15日から開幕さ
れるが、当館では
これに呼応し図書
館文化事業の一端
として、日本万国
博協会および県水
産商工部觀光貿易課の協力を得て関係資料を収集し、3
月1日から30日まで展示するため準備をすすめている。

新着資料の紹介

1. 館内用図書

(総 記)

- 書名
出版の先駆者
一生の読書計画
本を読む子の世界
(哲 学)
結婚するなら
愛すべきか
対話禅とキリスト教
水平思考の世界
(歴 史)
父山本五十六
古 墓
都市の立地と発展
知られざるリンカーン
(社会科学)
小国の運命、大国の運命
ハワイの日系人
裸にされる日本人
良妻賢母批判
学級話し合い活動入門
(自然科学)
宇宙開発
天気と健康
動物社会
(工 学)
石油が21世紀をつくる
離陸する住宅産業
高分子物語
(産 業)
アジアの農村
交通学入門
ミリオン・リップス

- 著編者
田所太郎
ファディマン
堀内輝三
田中澄江
三浦朱門
山田靈林
デボノ
山本義正
末永雅雄
クリスタラー
カーネギー
堀田善衛
手島秀彦
秋元芳雄
室俊司
杉山正一
岸田純之助
神山恵三
宮地伝三郎
岡本隆三
蒲池紀生
永井芳男
大野盛雄
佐藤敏章
安部雍子

(芸 術)

- 茶の湯ライブラリー 1~10
バレーボール
書道
(語 学)
ビジネス対話術
田崎英会話
司会の手引
(文 學)
桜の木は残った 上下
倉田百三の愛と認識の結末
童話のつくり方
妖精の女王
ロマン・ロランの言葉
(児 童)
絵本とこども
アポロ百科事典アーコ
つるのよめじょ
山はまねく
雪むすめ
(郷土資料)
出雲の阿国 上中下
潮繁之輔先生
東海道今昔旅日記
文学入門
(レファレンス)
現代新語と社会知識
安保沖縄問題用語事典
家政学辞典
日本地名事典 ④中部
⑤関東
⑦北海道
現代の日本画 2 きへの

- 淡交社
朝比奈一男
西川寧
三村侑弘
田崎清忠
永崎一
山本周五郎
折原脩三
石森延男
E・スペンサー
山口三夫訳編
瀬田貞二等
平凡社
棕鳩十
柏谷学
立原えりか
有吉佐和子
島根県郷土史会
福島和夫
ラルカデオ・ヘルン
今東光訳
金園社
田沼肇
ミネルヴァ書房
渡辺光
田中松

2. 映画 (16ミリ) フィルム

「父親何をなすべきか」白黒 3巻 対象 成人 P T A
父親には、子どもの成長のために母親とはちがった役割がある。その役割を子どもの心身の発達段階一幼児期、児童期、少年期、青年期一に分けて描き、父親独自の役割は何かを示唆する。

「君ならどうする」サラリーマンか、農業か

白黒 3巻 対象 青年

都会生活は夢に描いたほど甘くない。この映画は農村に留まるべきか否かを考える青少年に、農業と都会生活とを比較して示し進路選択を考えるための助けを与える。

「聖徳太子と飛鳥文化」カラー 2巻 対象 小、中
聖徳太子の政治理想が内政、外交、宗教の各方面に確

固たる業績として結実し、飛鳥文化を形成していく過程を当時の文化遺産や物語によって構成したものである。

「向い風の青春」白黒 5巻 対象 青年、成人

中華料理店のコック洋太は独立の夢を実現するため、誘わくにもまけず仕事に打ちこむ。そして結婚相談所でさがし当てた昌江と結婚の約束をし、独立する店さがしをするが、昌江を喜ばせようとあせった洋太は30万円をだましとられてしまう。しかし昌江と協力して屋台から始めるのである。

(青春—それは風に向かってさけぶような切なく、きびしいたかいの日々である。そして青春の輝きはそのたたかいの中にこそあるのだ)